【　令和２年度　展示　】

佐藤一斎　～藤樹書院を訪ねて２００年 ～

展示会場　：　近江聖人中江藤樹記念館　第１展示室

日本陽明学の祖　中江藤樹から大きな影響を受け、江戸時代後期の最大の儒者であると言われる佐藤一斎は、安永元年（１７７２年）に美濃国岩村藩家老、佐藤信由の次男として江戸岩村藩邸の屋敷で生まれた。

名は坦(たん）と言い、一斎は号である。佐藤一斎は、大学頭の林述斎との親交をつうじ林家の塾長となり、多くの門弟の指導に当たった。天保１２年（１８４１年）７０歳の時に幕府の昌平坂学問所の儒官を命じられ、将軍を始め諸大名に講義をした。

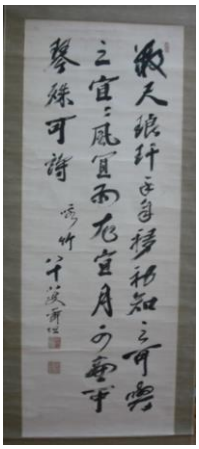
佐　藤　一　斎　像
（恵那市教育委員会）

佐藤一斎は、幕府の教学である朱子学を奉ずる立場にあったが、陽明学を排斥することなく、むしろ陽明学に強い関心をいだいていた。このことは、一斎が５０歳の時、美濃と京都にある父祖の地の墓や史跡を訪れた際、わざわざ近江小川村の「藤樹書院」を参詣し、藤樹の神主（位牌）に香をたむけたことからもうかがえる。

そうした一斎の思想に対して、他の儒者仲間から「陽朱陰王」などとあだ名されたことは有名である。「陽朱陰王」とは、表は朱子学を説いたが、裏では王陽明の学を信奉したという意味である。

佐藤一斎の代表的著書に「言志四録」、「伝習録欄外書」などがある。「言志四録」は、一斎が後半生の四十余年にわたり記した随想録である。西郷隆盛が「言志四録」から１０１ヵ条を座右に置き抄録したことは有名である。

今回の展示では、佐藤一斎が藤樹書院を訪ねて２００年になることを記念して、一斎が文政４年（１８２１年）に藤樹書院に参詣した時の書をはじめ、一斎が江戸時代後期に活躍した当時を偲ぶ遺墨や肖像画、書籍、写真および一斎ゆかりの地である岐阜県恵那市岩村城下などを紹介する。



佐藤一斎　七言絶句
（個人所蔵）

佐藤一斎座像　（岩村城址公園）

岩村城絵図
（国立公文書館所蔵）